

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成29年度 第2回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ① 平成29年度伊達西小学校放課後子ども教室事業内容について ② 伊達西小学校放課後子ども教室の課題点 ③ 放課後子ども教室実施校の拡大について		
開催日時	平成29年11月28日（火） 18：00～19：30		
場 所	伊達市役所第2庁舎会議室1		
出席委員	小林浩路 委員長、馬場一憲 委員、武者ますみ 委員 勝木真弓 委員、上埜幸喜 委員、藤本恭子 委員、星洋昭 委員（計7名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公 開 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：社会教育係長）</p> <p>2. 生涯学習課長挨拶（教育長・部長代理）</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）平成29年度 伊達西小学校放課後子ども教室事業内容について</p> <p>（2）伊達西小学校放課後子ども教室の課題点</p> <p>（3）伊達西小学校放課後子ども教室実施校の拡大について</p> <p>【レジュメに基づき事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p><input type="checkbox"/> 委員</p> <p>10月以降は高学年（5・6年生）の学習の日が金曜日から木曜日へ変更になり、中学年（3・4年生）と高学年の学習日が同一日となりました。それにより、習い事の関係で学習の日に参加できなくなった高学年の児童がいると聞きましたが、その点についてはどのように考えていますか。</p> <p>●事務局</p> <p>当初の想定では、全学年が同程度参加する見込みで6学年を3つに分けて事業を開始しています。実際には、高学年の登録児童数が少なく、3名ほどしか参加しない事業日も何度かあったことから、中学年・高学年を同一学習日に変更した経緯があります。次年度以降の曜日設定については、意見のような状況があることも考慮します。</p> <p><input type="checkbox"/> 委員</p> <p>学習の日の児童の反応はどうか。また、その点についての資料などは集計し</p>			

ていますか。

●事務局

現時点では児童等への個別の聞き取り調査は行っていないが、コーディネーターの話によると、学習に苦手感を抱えている児童のなかには、プリントの学習が進まず時間を持て余してしまう児童もいると聞いています。今後の事業の参考として、アンケート調査を行いたいと考えています。

□議長

中学年と高学年の学習の日を同一日に設定したとのこと。そのことで事業への支障はありますか。

●事務局

これまで、支障があったとの報告は受けておりません。

□委員

児童クラブでは学習指導を行わず、「宿題があったらやりなさいよ」的に声掛けをして、児童自ら宿題に取り組ませる方法をとっています。勉強を教えることはありませんが、宿題に関連する教科書の掲載箇所を示す程度のことは行っています。学校と放課後子ども教室（以下「子ども教室」と記載する。）で学習指導に違いがあるかと思いますが、どのように考えていますか。

また、高学年の児童は迎えが来なかったり、児童クラブへ送られることに抵抗を感じたりしているようです。本来であれば、勉強が難しくなる高学年の児童の方が放課後子ども教室に参加することで効果があると思いますが、なかなか実施側の思惑と実態が一致していないように感じます。

●事務局

学校の指導方針と異なる指導を行う可能性があるため、子ども教室で踏み込んだ学習指導は行っておりません。学習中に手が止まっている児童がいたら、ヒントを与えるような形で取り組んでいます。

学習内容については、教育委員会指導室と協議を行い、算数の力を伸ばすことを主眼に置いてプリントの学習を行っています。算数は答えが明確であることから、プリント学習に適しており積極的に実施しています。

高学年児童は自主的に、参加し学習に取り組んでいる様子ですが、低学年は、保護者の意向で参加していると考えられる児童もおり、プリント学習に気乗りでない児童は時間を持て余してしまう傾向があるように見受けられます。

高学年児童の送迎に関しては、既に状況を把握し対応しております。

□委員

体験の日は楽しいが、学習の日は楽しくないといった声がある。その点についてはどうお考えか。より多くの児童に放課後子ども教室に参加してもらうことや、子ども教室の認知度については、どのように考えていますか。

●事務局

勉強を楽しく感じさせるのは、小学校教員の方々でも試行錯誤している課題ですので、子ども教室のボランティアスタッフでは難しい部分がありますが、プリント学習においてもビジュアル要素を取り入れるなどの工夫は行っていきたいと考えています。

参加児童について、低学年児童であれば、保護者の意向が反映されることもあり、参加率自体は高めですが、意欲の差があるように感じます。中学年以上になると自主性が芽生えてきて、自らの意思で参加を決定しているように感じます。一方で、習い事が本格化する等、放課後子ども教室に参加しにくい状況はあると感じています。

認知度については、子ども教室が隔週開催となっており、定着しにくい開催日設定であると感じています。ニーズがあれば、分かりやすく「毎週火曜日開催」のような設定もあり得ますが、その場合には、ボランティアスタッフを増員しなければならない状況になります。現状の体制では難しい状態です。

□委員

ボランティアスタッフの配置について教えてほしい。

●事務局

現在は、教員経験者のコーディネーター1名、同じく教員経験者の学習指導員3名、安全管理人6名で運営しています。学習の日では、少なくとも7名程度のスタッフで運営する必要があります。

イメージとしては、寺子屋のような形です。プリントができた児童が自ら学習指導員の場所までプリントを持参し、プリントの丸つけをしてもらいます。安全管理人はプリントを解く簡単な手助けをしたり（足し算で両手の指では足りない児童に、手を貸してあげたり）、安全管理を行ったりといった運営をしています。

□議長

個別指導については考えていますか。

●事務局

現時点では特に考えていません。学校での指導方法と異なれば、児童を混乱させるので、放課後子ども教室における学習指導の限界を感じています。

□委員

基本はプリント学習でよいと感じますし、それ以上の学習内容に取り組むのは今年度の運営を見る限りでは、難しいのではと感じます。学校においても、長期休業中に学習会を行っており、ほとんどの学校で取り組んでいますが、その内容もプリント学習とプリントの丸つけです。そのなかで特に意識しているのが児童に多くのプリントに取り組ませることです。多くのプリントに取り組むことで子どもは満足感を得られるからです。放課後子ども教室では月2回の学習の日を設けており、そのなかでプリント学習を行うだけでも十分なのではないかと思えます。

□委員

子ども教室の現場にいる立場として、まったくプリント学習ができない児童にはマンツーマンで指導をしてあげたい気持ちと、踏み込んだ学習指導ができないことがジレンマでもあります。と同時に、放課後児童クラブの方から見て学力的に子ども教室で学んでほしいと感じている子どもが増えれば、なおさらこの悩みが大きくなってしまわないかとのジレンマも抱えています。

また、個人的な考えとして、プリント学習はある程度の学年でないと効果が上がらないのではないかと考えています。

□委員

過去に実践した取組として3～40種類と、とにかく大量のプリントを用意した経験があります。

それでも取り組むことが難しい場合があるかもしれませんが、そういった場合には1学年下の問題に取り組むことで学び直しの意味でも効果があると考えます。

□委員

子どもにとっては丸つけをしてもらうことで、「わかる」感覚が自信にもつながりますね。私は、子ども教室で、学習塾的な指導を行うことはとても困難であると感じます。それよりも、先程の話のように、沢山のプリントを用意し取りまわせる方がとつきやすいのかもしれない。

●事務局

沢山のプリントを用意することは、非常に参考になる事例だと思います。しかし、中学年・高学年の学習の日であれば、平均すると1人4枚程度のプリントに取り組み、さらに4学年分なので、合計16枚×人数分を行うこととなります。この量の丸つけを3人の学習指導員で行うため、大変な状況となっています。確かに児童の学力に対応したプリント数を用意することは有用ではありますが、同時に解答側負担増の問題も出てきます。

□議長

習熟度別にプリントを用意し、子どもの実態を把握することは大変なことでもあるとは思いますが、そのあたりはいかがですか。

□委員

やはりボランティアスタッフがたくさんいれば可能だと思います。問題数が増えれば、それだけ解答数も増えるため、対応が難しくなるかと思いません。また、勉強以外の面で言えば、学習に集中できない児童や、席を離れてしまうような児童へ対応に、ボランティアスタッフの数は多い方がよいと考えます。

●事務局

事務局としての子ども教室ボランティアスタッフ募集のPRが足りないこともあるかと思えます。スタッフとして登録される方が多いほど、スタッフ一人当たりの負担が少なくなりますので、スタッフ人員が一番の課題であると認識しています。

□議長

学習の日のプリントで取り組んでいるのは算数だけですか。

●事務局

現時点では、算数と漢字の読みの問題を作成しています。漢字の書きなどは筆順も重要で、採点に時間を要してしまうことや、文章問題などは、答えが一つでは無いことから、解答が難しくなるため、作成しておりません。

□委員

遊び・交流・体験の日の内容についてですが、児童クラブでは作成したもので競わせると、子どもたちの反応が良好です。たとえば、ぶんぶんごま、けん玉、百人一首のようなものと、違う世代の方と交流できますし、子どもたちも集中している様子を感じられます。

□委員

遊び・交流・体験の日の内容では、体を動かすイベントが少ないように感じます。もちろん怪我などには細心の注意を払わなければいけません。冬の期間でしたら雪像づくりや雪合戦など。他校で行っていた内容として、農作物づくり（農園づくり）などもよいのかと思います。特に農作物づくりでは、収穫した農作物を調理して食べるようなことも可能ではないかと考えます。

●事務局

事務局としても調理体験は事業として魅力的と考えておりますが、多数の児童がいる中でアレルギーの有無、食中毒や感染症に細心の注意を払う必要があることから、事業としては大変難しいと感じています。また、運動的なものであれば、1年生から6年生では体格や体力にかなりの差がありますが、できるだけそのような差が生まれにくいようなイベントを考えて実施したいと考えています。

□委員

例えばリレー遊びであれば、学年を縦割りにして全学年で取り組むこともできると思います。

□委員

ボランティアスタッフの方々は、伊達市内在住の方ですか。また、伊達西小学校付近に住まわれている方々はおりますか。

●事務局

ボランティアスタッフは、全員伊達市内在住です。地域的には、長和町や舟岡町から来られている方もいます。理想としては、伊達西小学校に通学している児童の保護者の方や伊達西小学校校区の方に参加して頂ければと考えています。

□委員

子ども教室と児童クラブの両方に在籍している児童がいますが、その点での相乗効果や困っている点などはありますか。

□委員

特に困っている点はありません。そもそも、児童クラブでは、宿題を中心に学習の時間を設けていますが、子ども教室では、学力の向上を目的としているなど目的の違いもありますし、子ども教室と児童クラブの双方に在籍している児童は、切り替えができていますと感じます。また、双方に在籍することで児童クラブに加えてプラスアルファの要素として、成果を得られていると感じます。

□委員

学校側から子ども教室の運営に対しての意見などはありますか。

□委員

当初は、子ども教室登録児童と保護者への定着が図れず、学校側としても子ども教室実施日の参加児童の出欠確認などの協力をした部分もありましたが、最近ではこのような事例はほとんどなくなったと感じます。ただ、学校行事や授業の関係による教室変更・日時変更などの連絡・連携はこれからも密に取りたいと考えています。

また、他の自治体の放課後子ども教室事業を拝見したときは、放課後の居場所づくりを主眼としており、宿題が終われば遊んでもよいということで、宿題が終わった児童は遊び放題な状態でした。それと比較すると、伊達西小学校で行われている子ども教室事業は、規律が守られ、メリハリがついている印象であり、このまま継続して頂きたいと感じます。

●事務局

前任の伊達西小学校長に、①子どもたちが学校で身に付けた規律が、子ども教室に参加することで乱れるような結果にならないでほしい②宿題は、家庭での学習習慣を身に付けるためのものであり、あくまで家庭で行うべきことであるから、子ども教室で取り組ませることはしないしてほしいと伝えられ、スタッフも以上の2点の気をつけて運営を行っています。また、急遽教室が変更となった場合は、こちらで対応したいと考えています。

4. その他

- ・平成30年度より、「放課後児童クラブ」事業が子育て支援課から生涯学習課へ所管替えとなる予定
- ・第3回放課後子ども教室運営委員会は平成30年3月頃に開催予定

5. 閉会（小林委員長）